

# NRC「日本人の食」調査

## 【Part3：食の健康と安全性】

2015年4月/5月調査結果

 **日本リサーチセンター**  
Member of Gallup International Association

東京都中央区日本橋本町2-7-1  
TEL:03-6667-3400 (代) FAX:03-6667-3470  
<http://www.nrc.co.jp/>

◆全国15～79才男女を対象に、「日本人の食の嗜好や食生活」について調査した結果です。

以下の全5回に分けて調査レポートをご紹介します。（Part1とPart2は、弊社ホームページにて掲載中）

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 『Part1：食の嗜好』             | → 弊社ホームページにて掲載中 |
| 『Part2：よく食べるものや好き嫌い』     | → 弊社ホームページにて掲載中 |
| 『 <b>Part3：食の安全と健康</b> 』 | → <b>本レポート</b>  |
| 『Part4：食へのこだわりと満足度』      | → 今後掲載予定        |
| 『Part5：外食・中食等の利用』        | → 今後掲載予定        |
| 『NRC食クラスターのご紹介』          | → 弊社ホームページにて掲載中 |

本レポートは、このシリーズの**第3弾**にあたるものです。

なお、この調査結果を利用して、食に関するセグメンテーション分析を実施し、「**NRC食クラスター**」を作成しました。

よろしければ、以下もご参照ください。

<http://www.nrc.co.jp/strategy/>

## ◆『Part3 : 食の安全と健康』について

2015年4月と5月の2回に分けて、調査員による訪問留置法で実施。質問項目は全部で66項目あるが、Part3では、食の健康と安全性に関する結果を紹介する。「食生活に関する以下の事柄について、どの程度あてはまりますか？」と質問し、選択肢は「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階を提示。

以下では、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合計した「**あてはまる・計**」と、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合計した「**あてはまらない・計**」の**2つの比率**を中心に、日本人全体と性別、年代別、エリア別にブレイクダウンした結果を紹介する。

(サンプル数は合計2,400人だが、比率は、設問ごとに「無回答」を除外して算出している)

## ◆日本人全体の結果をまとめると、

<健康・栄養バランスについては……>

- ◆『**栄養バランスのよい食事をこころがけている**』は、「あてはまる・計」(肯定)が46%と多数で、「あてはまらない・計」(否定)23%を上回っている。
- ◆一方で、『**自分の今の食生活は栄養が偏っていると思う**』は、肯定と否定が3割強とほぼ同じ。栄養バランスをこころがけている人は46%と多いが、栄養が偏っていないと断言できる人は32%とやや少なくなる。
- ◆『**健康のために積極的に食べているものがある**』は、肯定が31%に対し、否定41%の方が多い。同様に、『**塩分や油分など健康のために制限しているものがある**』も、肯定25%より否定47%が多い。健康を理由にして積極的摂取、あるいは、制限しているものは、いずれもしていない人の方が多い。
- ◆『**腹八分目をこころがけている**』は、肯定と否定が36%と同比率。しかし、『**ダイエットをしている**』では、肯定14%に対し、否定64%が圧倒的に多い。

<規則正しい食生活では……>

- ◆『**間食をよくする**』は、「あてはまる・計」の肯定と、「あてはまらない・計」の否定が3割後半でほぼ同率。
- ◆一方、『**夜食をとることが多い**』は、肯定が15%に対し、否定69%が圧倒的に多い。間食をとる人は少なくないが、夜食をとる人は少ないようである。
- ◆『**朝昼夜の3食を欠かさず食べている**』、『**食事をする時間帯はほぼ決まっている**』は、どちらも肯定が70%と多い。3食欠かさずや時間帯の規則正しさは大多数の人が行っており、不規則な食生活を送っている人は少数派と言える。

### <安全性は……>

- ◆『**食品の安全性を気にしている**』と抽象的な問いで質問すると、「あてはまる・計」の肯定が55%と、「あてはまらない・計」の否定19%を大きく上回る。
- ◆もっと具体的な質問では、『**添加物や化学調味料を気にしている**』は、肯定が41%>否定26%。『**野菜や肉、魚は、原産国を気にする**』は、肯定56%>否定20%。添加物や化学調味料よりも、食材の原産国を気にする人の方が多い。
- ◆一方で、『**無農薬や有機栽培のものを食べるようにしている**』は、肯定28%と否定32%が拮抗しており、無農薬、有機栽培に対する意識はあまり高くない。
- ◆地産地消については、『**地元でとれた野菜や食材を食べるようにしている**』は、肯定40%>否定27%。
- ◆鮮度意識については、『**食品の賞味期限や消費期限を気にする方だ**』は、肯定が54%と半数を超える。

## ◆各項目ごとに、全体と属性別の結果をまとめると、

<健康・栄養バランスについては……> 性別では女性で、年代では高齢層ほど、健康・栄養バランス意識が高い。

### ① 栄養バランスのよい食事をこころがけている

- 日本人全体で見れば、『**栄養バランスのよい食事をこころがけている**』は、「あてはまる・計」（肯定）が46%と多数。
- 属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「**栄養バランスをこころがけている**」人が多くなる。

### ② 自分の今の食生活は栄養が偏っていると思う

- 日本人全体で見れば、『**自分の今の食生活は栄養が偏っていると思う**』は、「あてはまる・計」（肯定）が33%で、否定と拮抗している。
- 属性別では、男女の差はないが、年代差がみられ、高齢層よりも若年層になるほど、「**栄養が偏っていると思う**」人が多くなる。

### ③ 健康のために積極的に食べているものがある

- 日本人全体で見れば、『**健康のために積極的に食べているものがある**』は、「あてはまる・計」（肯定）が31%と少ない。
- 属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「**積極的に食べているものがある**」人が多くなる。

#### ④塩分や油分など健康のために制限しているものがある

- 日本人全体で見れば、『塩分や油分など健康のために制限しているものがある』は、「あてはまる・計」（肯定）が25%と少ない。
- 属性別では、男女差は顕著ではないが、年代差は大きく、若年層よりも高齢層になるほど、「制限しているものがある」人が多くなる。

#### ⑤腹八分目をこころがけている

- 日本人全体で見れば、『腹八分目をこころがけている』は、「あてはまる・計」（肯定）が36%で、否定と拮抗している。
- 属性別では、男女差は大きくないが、年代差は顕著で、若年層よりも高齢層になるほど、「腹八分目をこころがけている」人が多くなる。

#### ⑥ダイエットをよくしている

- 日本人全体で見れば、『ダイエットをよくしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が14%と少ない。
- 属性別では、肯定率については、男女差も年代差も顕著な傾向がみられない。

<規則正しい食生活では・・・> 三食規則正しい食生活は、年代差が大きく、若年層で低く、高齢層で該当率が高い。

#### ⑦間食をよくする

- 日本人全体で見れば、『間食をよくする』は、「あてはまる・計」（肯定）が37%と、否定とほぼ拮抗している。
- 属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、高齢層よりも若年層になるほど、「間食する」人が多くなる。

#### ⑧夜食をとることが多い

- 日本人全体で見れば、『夜食をとることが多い』は、「あてはまる・計」（肯定）が15%と少ない。
- 属性別では、男女では顕著な差がないが、年代差がみられ、高齢層よりも若年層になるほど、「夜食をとる」人が多くなる。

#### ⑨朝昼夜の3食を欠かさず食べている

- 日本人全体で見れば、『朝昼夜の3食を欠かさず食べている』は、「あてはまる・計」（肯定）が70%と多い。
- 属性別では、男女差は大きくないが、年代差は顕著で、若年層よりも高齢層になるほど、「3食欠かさず食べている」人が多くなる。

#### ⑩食事をする時間帯はほぼ決まっている

- 日本人全体で見れば、『食事をする時間帯はほぼ決まっている』は、「あてはまる・計」（肯定）が70%と多い。
- 属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層ほど、「食事の時間帯は決まっている」人が多くなる。

＜安全性は・・・＞ 性別では女性で、年代では高齢層で、安全性に関する意識が高い。

### ⑪食品の安全性を気にしている

- 日本人全体で見れば、『食品の安全性を気にしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が55%と多い。
- 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「安全性を気にしている」人が多くなる。

### ⑫添加物や化学調味料を気にしている

- 日本人全体で見れば、『添加物や化学調味料を気にしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が41%。
- 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「添加物等を気にしている」人が多くなる。

### ⑬野菜や肉、魚は、原産国を気にする

- 日本人全体で見れば、『野菜や肉、魚は、原産国を気にする』は、「あてはまる・計」（肯定）が56%と多い。
- 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「原産国を気にする」人が多くなる。

### ⑭無農薬や有機栽培のものを食べるようにしている

- 日本人全体で見れば、『無農薬や有機栽培のものを食べるようにしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が28%と少ない。
- 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「無農薬や有機栽培を食べる」人が多くなる。

### ⑮地元でとれた野菜や食材を食べるようにしている

- 日本人全体で見れば、『地元でとれた野菜や食材を食べるようにしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が40%。
- 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「地元の食材を食べる」人が多くなる。
- またエリア別でも、関東と近畿では低く、北海道・東北、中国・四国・九州で高いという傾向がみられた。

### ⑯食品の賞味期限や消費期限を気にする方だ

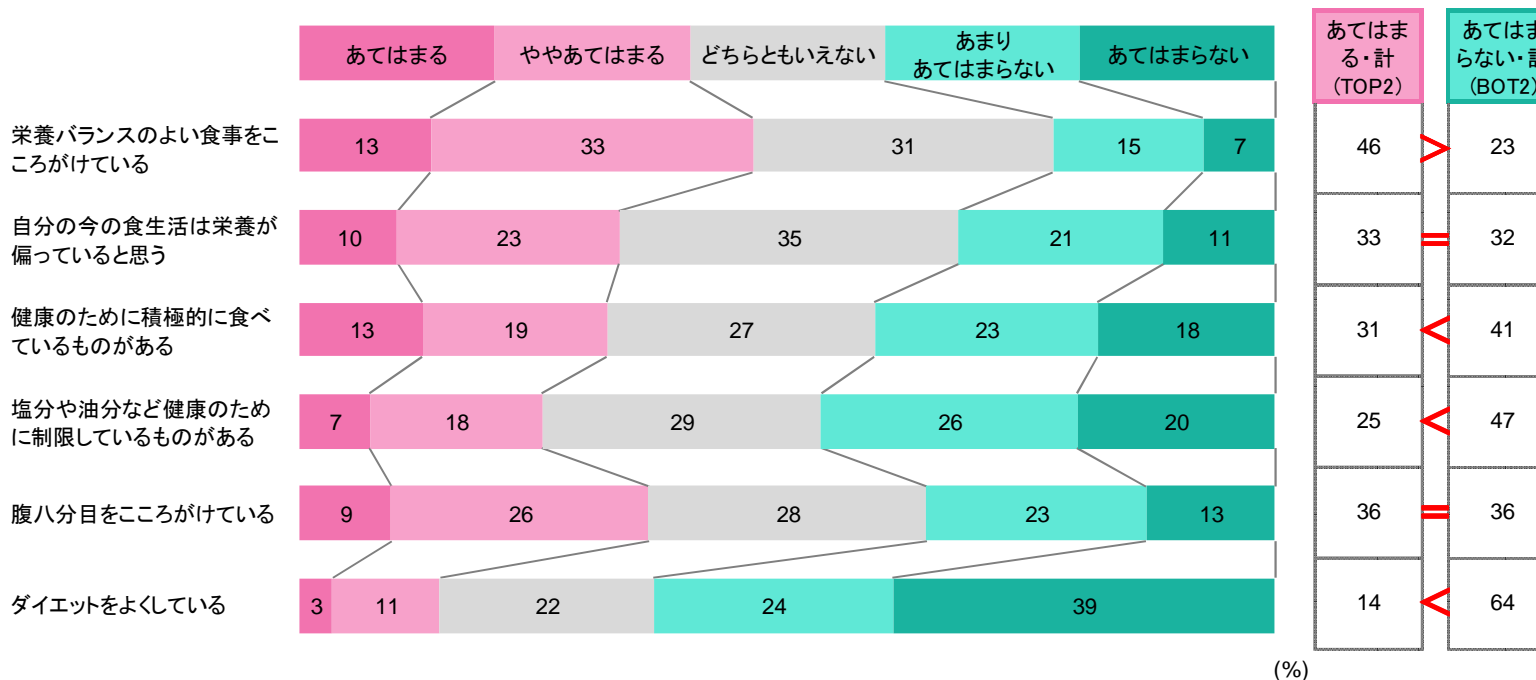
- 日本人全体で見れば、『食品の賞味期限や消費期限を気にする方だ』は、「あてはまる・計」（肯定）が54%と多い。
- 属性別では、男性よりも女性で、「期限を気にする」人が多くなる。年代では、大差ではないものの高齢層で高くなる傾向がみられる。

- ◆ 全国15~79歳男女に対して、「食生活に関する以下の事柄について、どの程度あてはまりますか？」と質問した結果である。
- ◆ 「あてはまる」と「ややあてはまる」を合計した「あてはまる・計」と、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合計した「あてはまらない・計」の比率を中心に結果をみていく。（比率は、設問ごとに「無回答」を除外して算出）

## <健康・栄養バランスについては……>

- ◆ **栄養バランスのよい食事をこころがけている**は、「あてはまる・計」（肯定）が46%と多数で、「あてはまらない・計」（否定）23%を上回っている。
- ◆ 一方で**自分の今の食生活は栄養が偏っていると思う**は、肯定と否定が3割強とほぼ同じ。栄養バランスをこころがけている人は46%と多いが、栄養が偏っていないと断言できる人は32%とやや少なくなる。
- ◆ **健康のために積極的に食べているものがある**は、肯定が31%に対し、否定41%の方が多い。同様に、**塩分や油分など健康のために制限しているものがある**も、肯定25%より否定47%が多い。健康を理由にして積極的摂取、あるいは、制限しているものは、いずれもしていない人の方が多い。
- ◆ **腹八分目をこころがけている**は、肯定と否定が36%と同比率。しかし、**ダイエットをよくしている**では、肯定14%に対し、否定64%が圧倒的に多い。

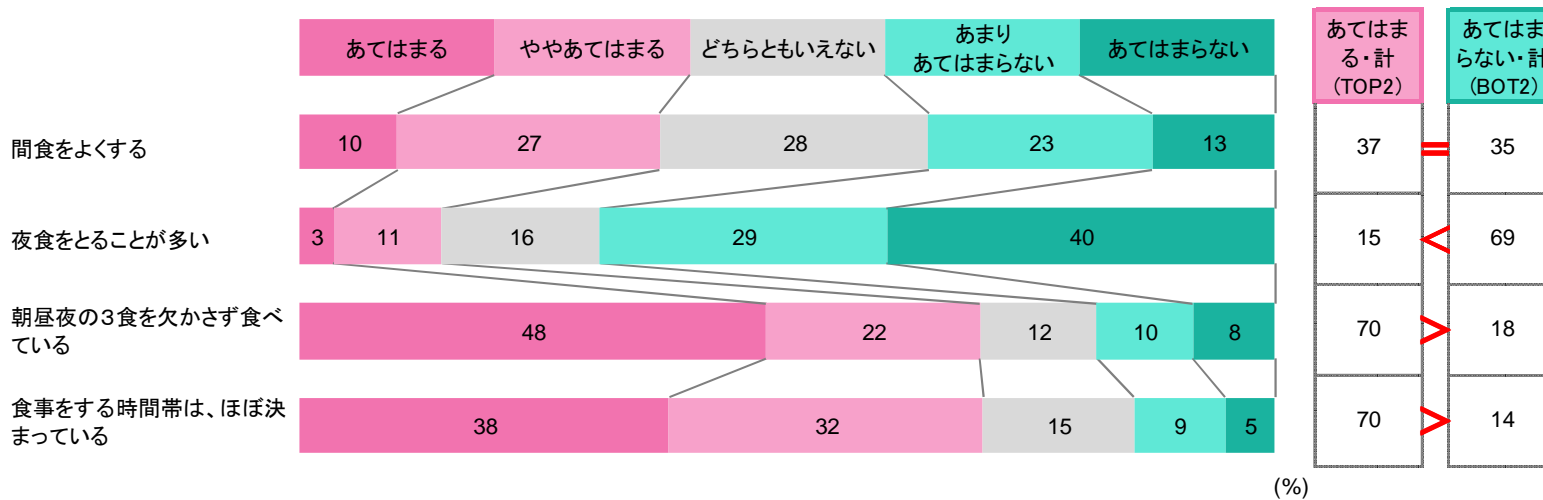
Q「食生活」について、どの程度あてはまりますか。



## <規則正しい食生活では……>

- ◆ **間食をよくする**は、「あてはまる・計」の肯定と、「あてはまらない・計」の否定が3割後半でほぼ同率。
- ◆ 一方、**夜食をとることが多い**は、肯定が15%に対し、否定69%が圧倒的に多い。間食をとる人は少なくないが、夜食をとる人は少ないようである。
- ◆ **朝昼夜の3食を欠かさず食べている**、**食事をする時間帯は、ほぼ決まっている**は、どちらも肯定が70%と多い。3食欠かさずや時間帯の規則正しさは、大多数の人が行っており、不規則な食生活を送っている人は少数派と言える。

Q「食生活」について、どの程度あてはまりますか。

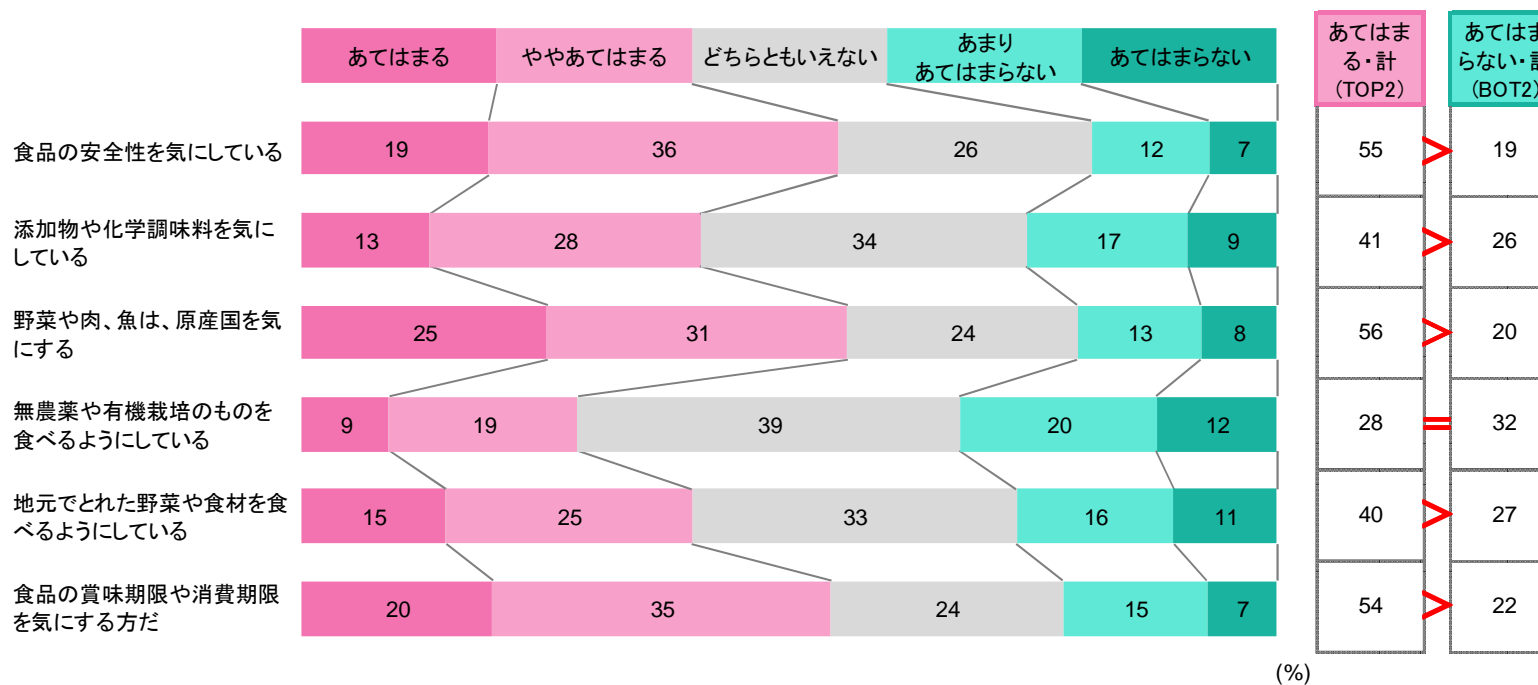




## <安全性は……>

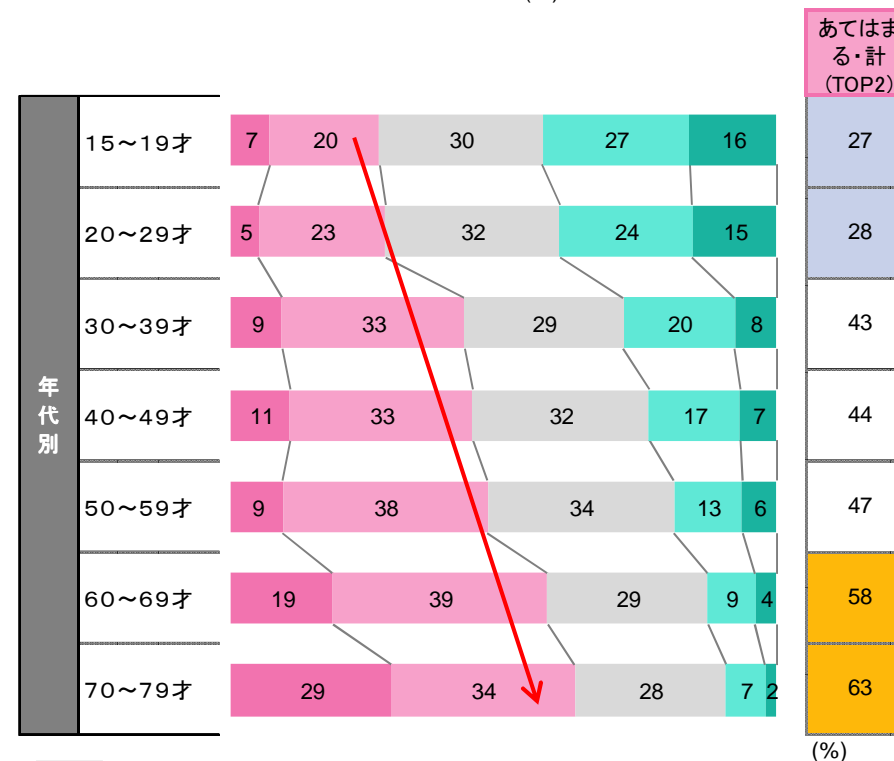
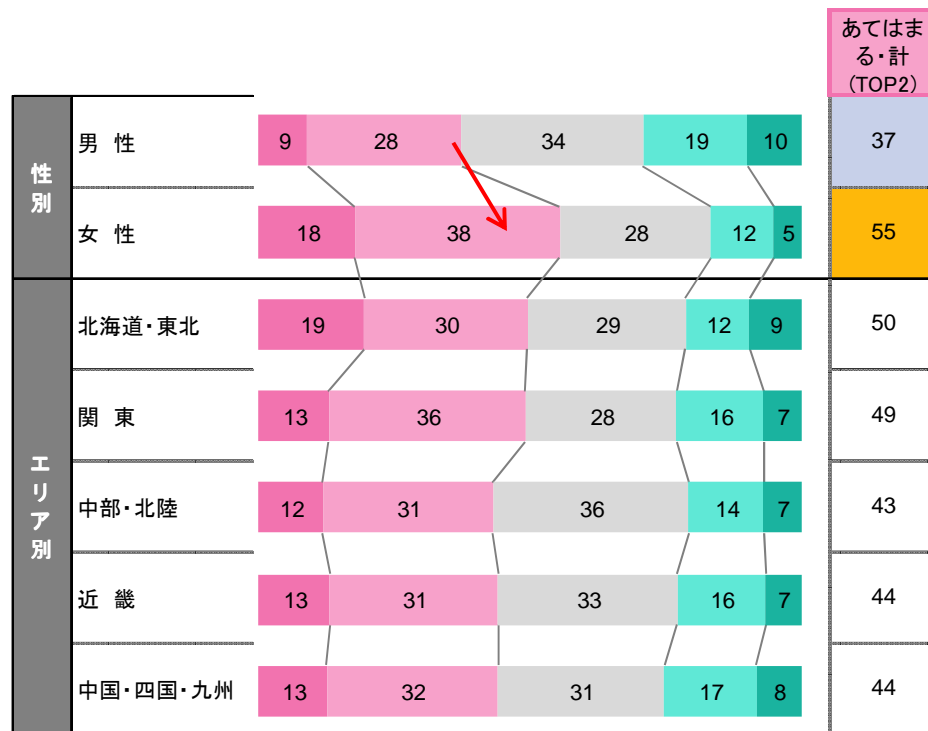
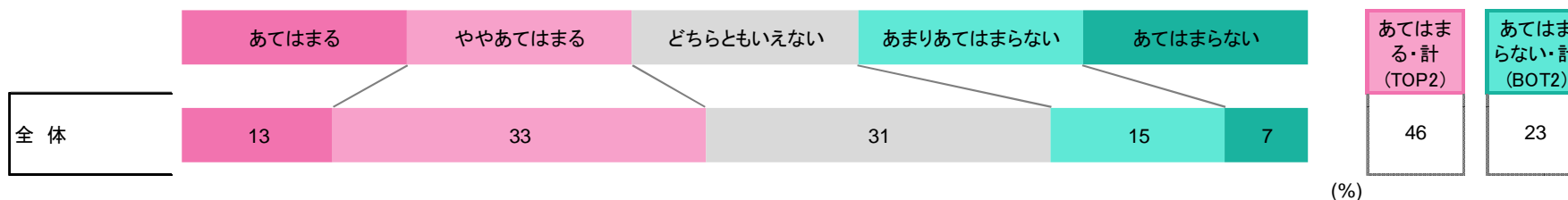
- ◆ **食品の安全性を気にしている**と抽象的な問いで質問すると、「あてはまる・計」の肯定が55%と、「あてはまらない・計」の否定19%を大きく上回る。
- ◆ もっと具体的な質問では、**添加物や化学調味料を気にしている**は、肯定が41%>否定26%。**野菜や肉、魚は、原産国を気にする**は、肯定56%>否定20%。添加物や化学調味料よりも、食材の原産国を気にする人の方が多い。
- ◆ 一方で、**無農薬や有機栽培のものを食べるようにしている**は、肯定28%と否定32%が拮抗しており、無農薬、有機栽培に対する意識はあまり高くない。
- ◆ 地産地消については、**地元でとれた野菜や食材を食べるようにしている**は、肯定40%>否定27%。
- ◆ 鮮度意識については、**食品の賞味期限や消費期限を気にする方だ**は、肯定が54%と半数を超える。

Q「食生活」について、どの程度あてはまりますか。



- ◆日本人全体で見れば、『**栄養バランスのよい食事をこころがけている**』は、「**あてはまる・計**」（肯定）が46%と多数。
- ◆属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「**栄養バランスをこころがけている**」人が多くなる。
- ◆肯定率は、男性37%に比べて女性が55%と高く、また、20代以下では3割弱に対し、60代以上では6割前後まで増加する。

栄養バランスのよい食事をこころがけている

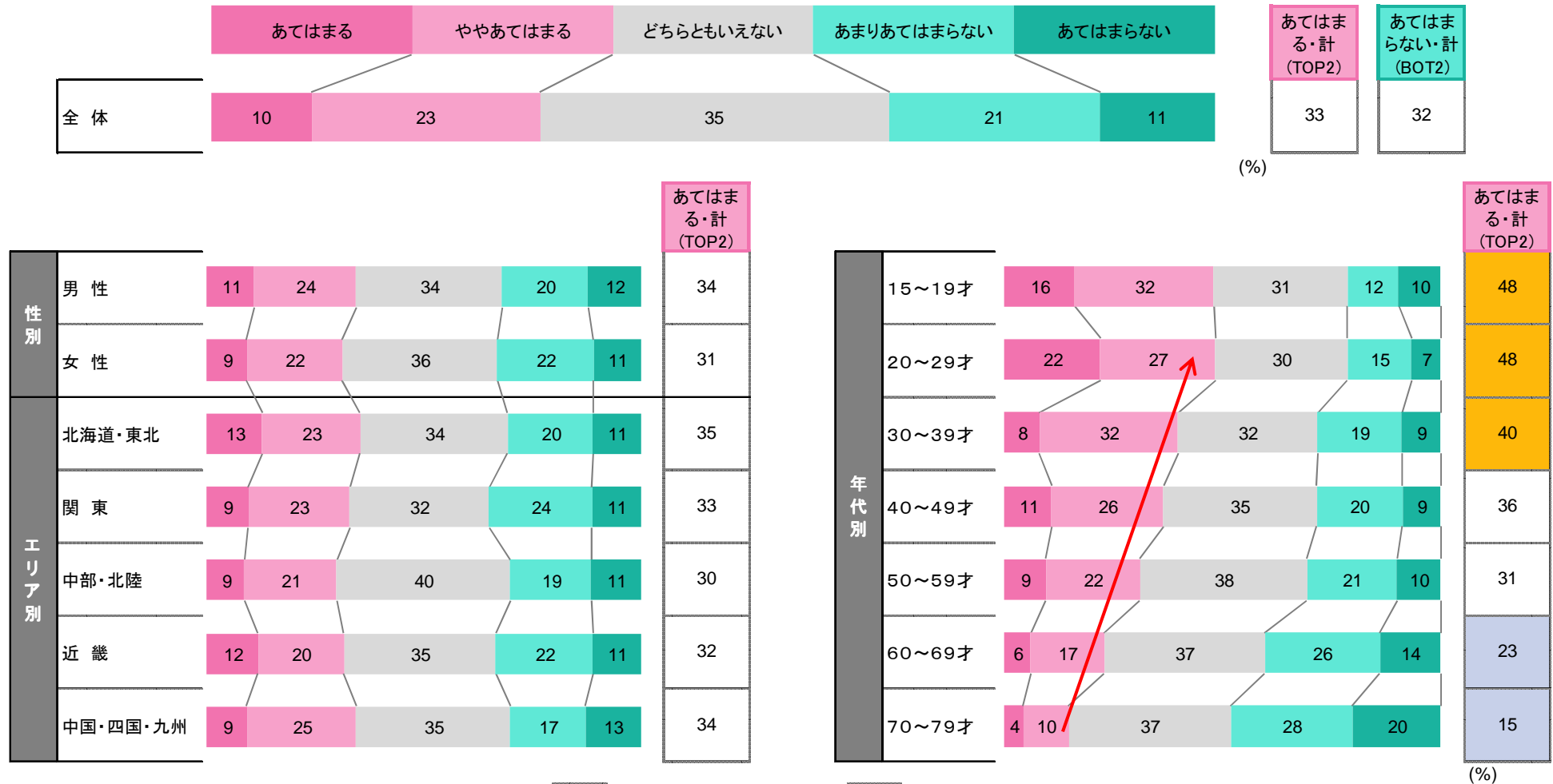


(注)   は全体より5ポイント以上高い、   は5ポイント以上低い

(%)

- ◆日本人全体で見れば、『自分の今の食生活は栄養が偏っていると思う』は、「あてはまる・計」（肯定）が33%で、否定と拮抗している。
- ◆属性別では、男女の差はないが、年代差がみられ、高齢層よりも若年層になるほど、「栄養が偏っていると思う」人が多くなる。
- ◆肯定率は、60代以上では15～23%と低いが、30代では40%、20代以下では5割弱まで増加する。

自分の今の食生活は栄養が偏っていると思う

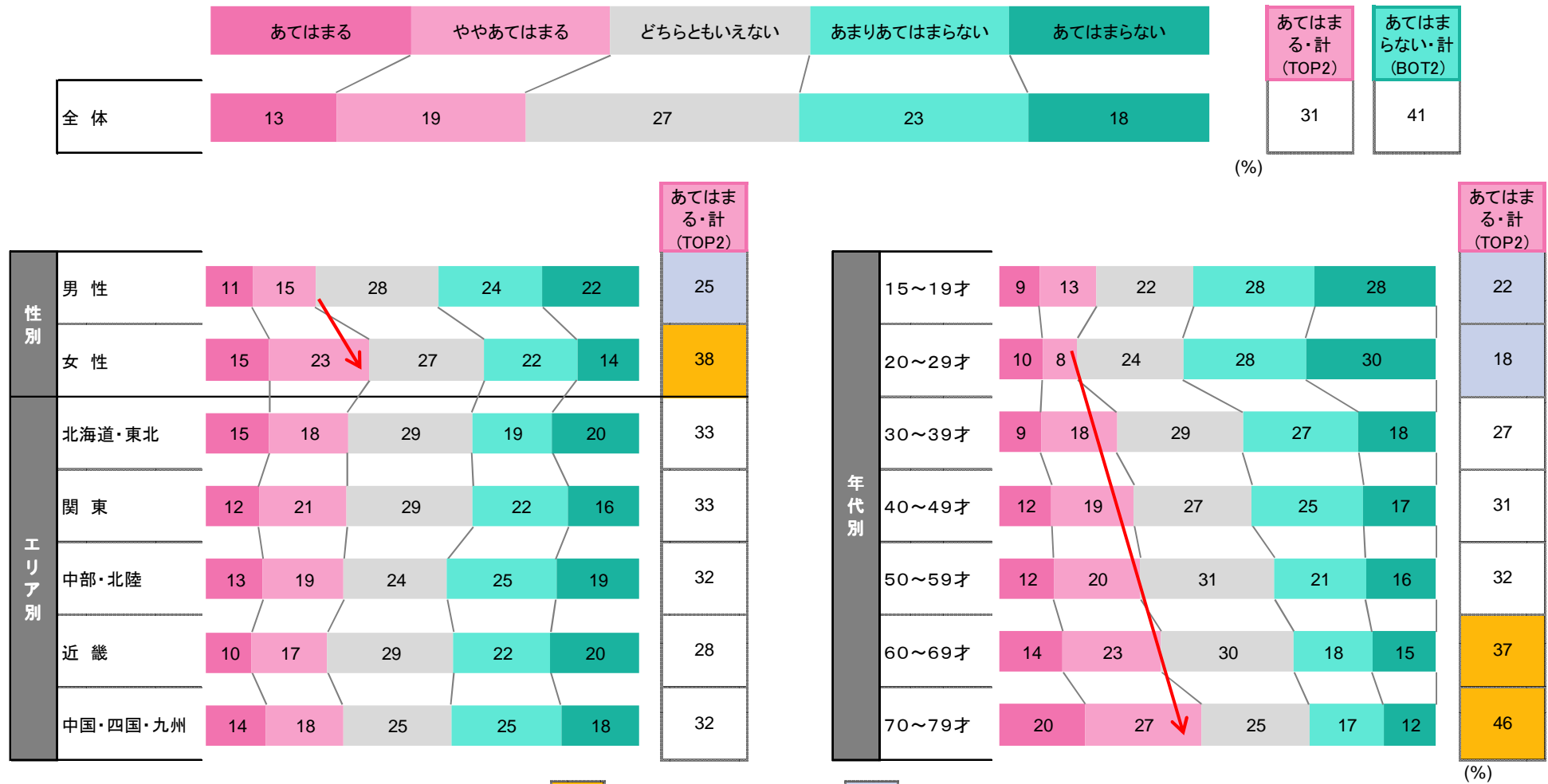


(注)   は全体より5ポイント以上高い、  は5ポイント以上低い

(%)

- ◆日本人全体で見れば、『健康のために積極的に食べているものがある』は、「あてはまる・計」（肯定）が31%と少ない。
- ◆属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「積極的に食べているものがある」人が多くなる。
- ◆肯定率は、男性は25%に対し、女性では38%と多い。また、20代以下では2割前後に対し、60代から高くなり、70代では46%まで増加する。

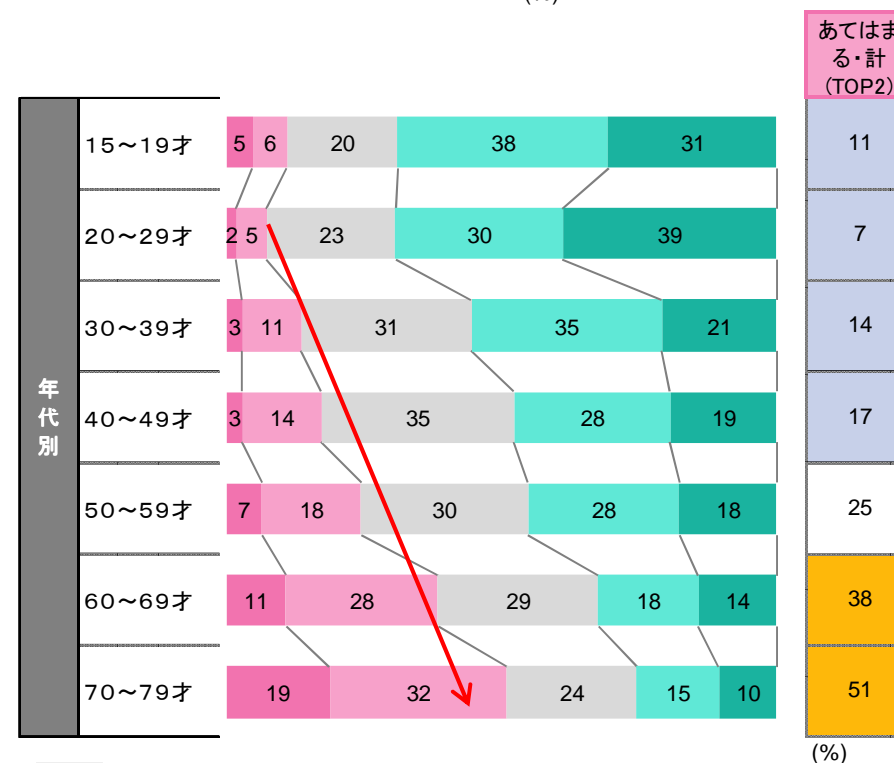
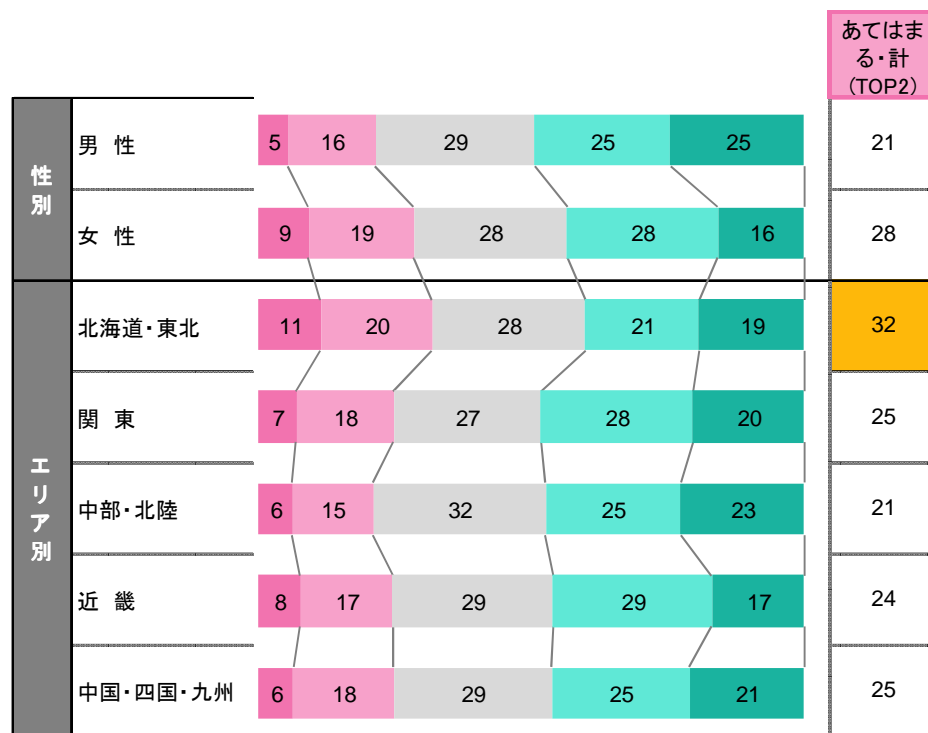
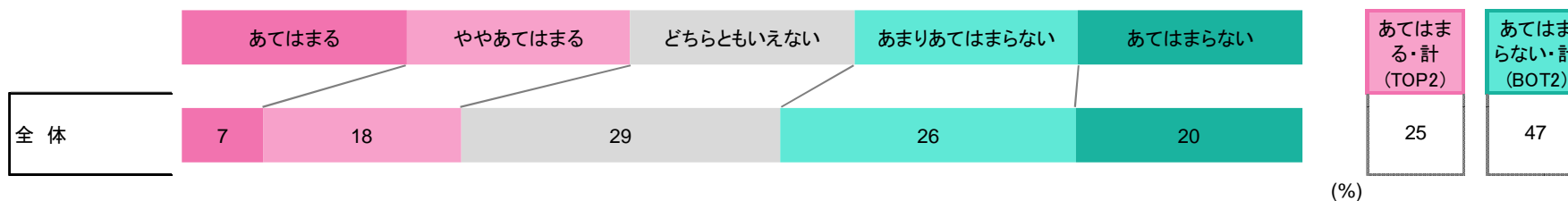
健康のために積極的に食べているものがある



(注)   は全体より5ポイント以上高い、   は5ポイント以上低い

- ◆日本人全体で見れば、『塩分や油分など健康のために制限しているものがある』は、「あてはまる・計」（肯定）が25%と少ない。
- ◆属性別では、男女差は顕著ではないが、年代差は大きく、若年層よりも高齢層になるほど、「制限しているものがある」人が多くなる。
- ◆肯定率は、40代以下では2割に満たず低いが、60代から増加し、70代では51%まで増加する。

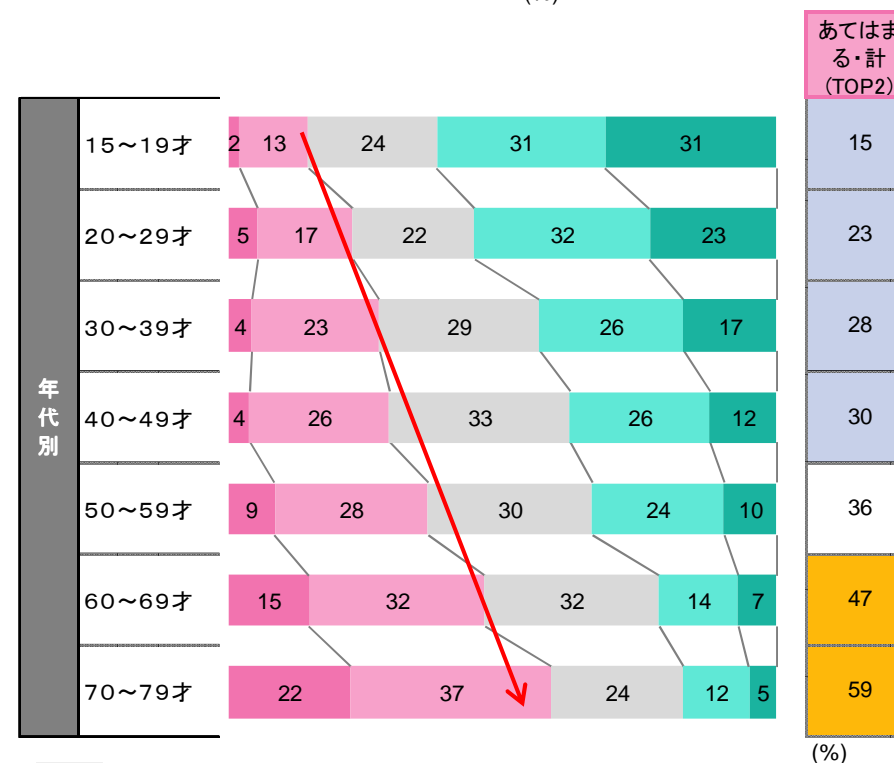
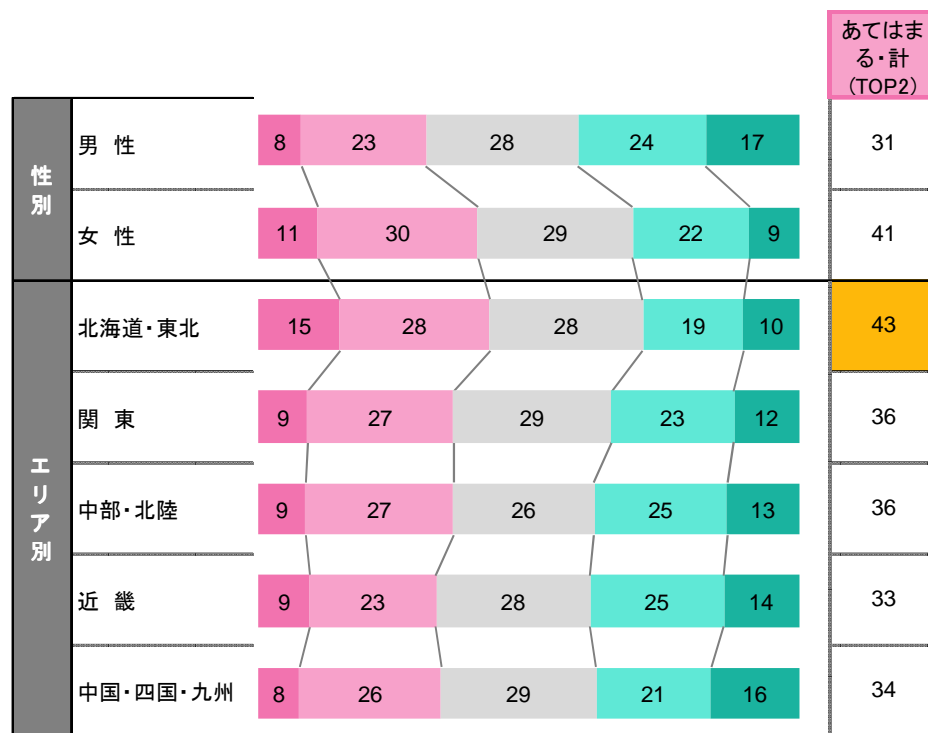
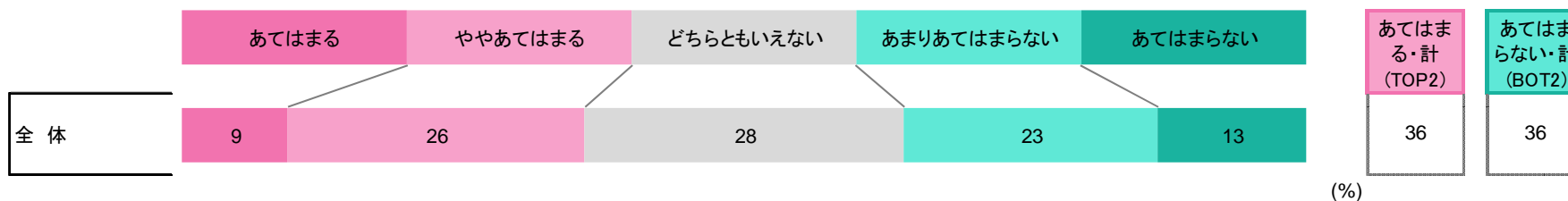
塩分や油分など健康のために制限しているものがある



(注)      は全体より5ポイント以上高い、     は5ポイント以上低い

- ◆日本人全体で見れば、『腹八分目をこころがけている』は、「あてはまる・計」（肯定）が36%で、否定と拮抗している。
- ◆属性別では、男女差は大きくないが、年代差は顕著で、若年層よりも高齢層になるほど、「腹八分目をこころがけている」人が多くなる。
- ◆肯定率は、40代以下では3割以下と低いですが、60代から増加し、70代では59%まで増加する。

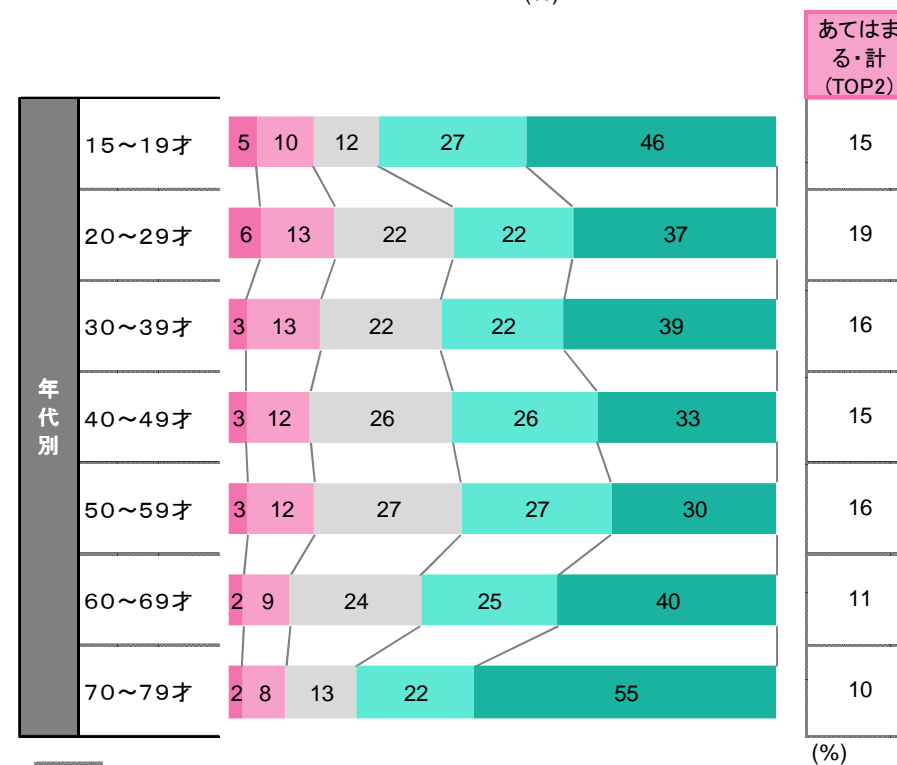
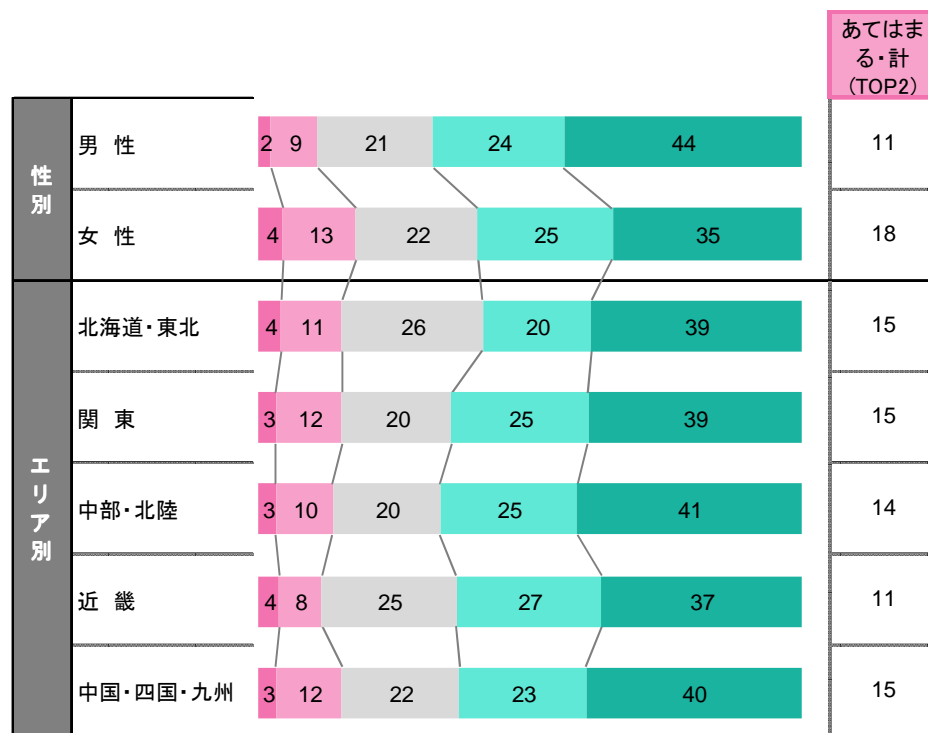
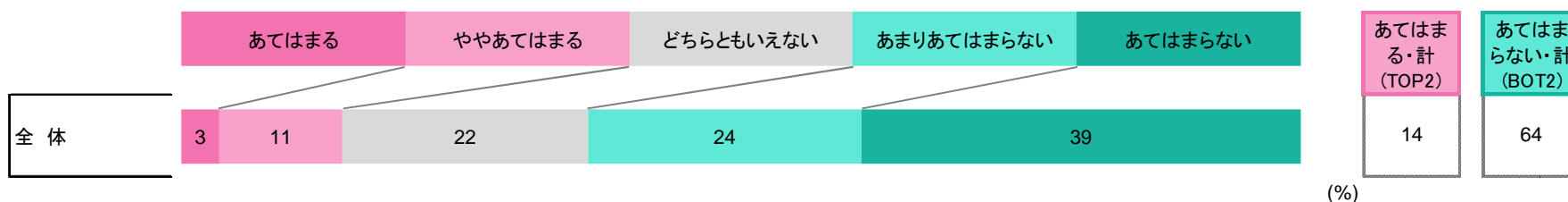
腹八分目をこころがけている



(注)   は全体より5ポイント以上高い、   は5ポイント以上低い

- ◆日本人全体で見れば、『ダイエットをよくしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が14%と少ない。
- ◆属性別では、肯定率については、男女差も年代差も顕著な傾向がみられない。
- ◆ただし、「あてはまらない・計」の否定率に注目すると、10代と70代では「ダイエットをしていない」人が多いのがわかる。

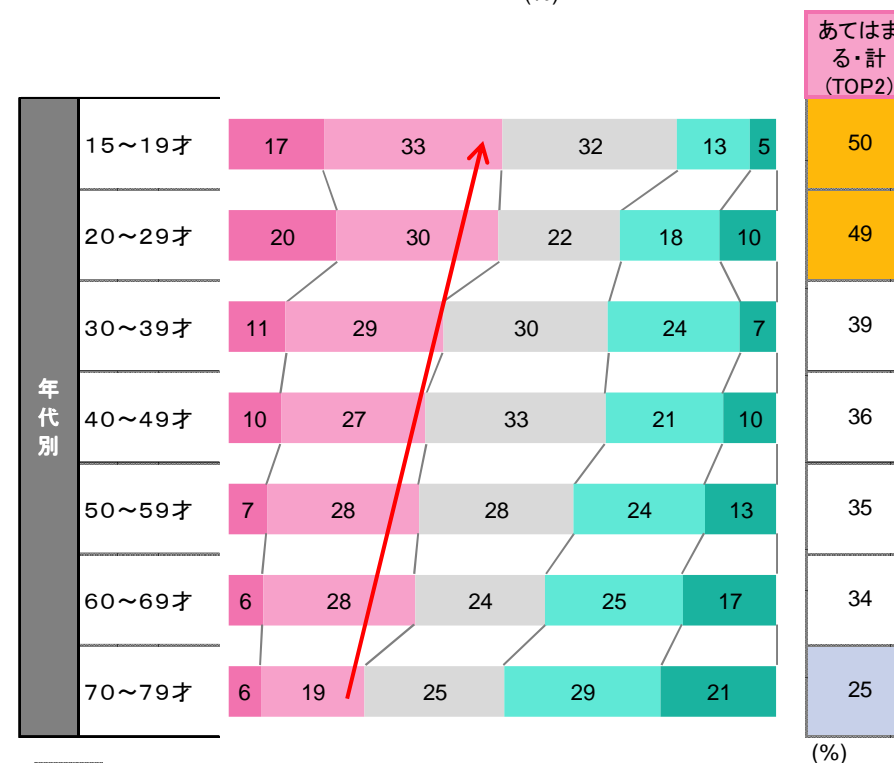
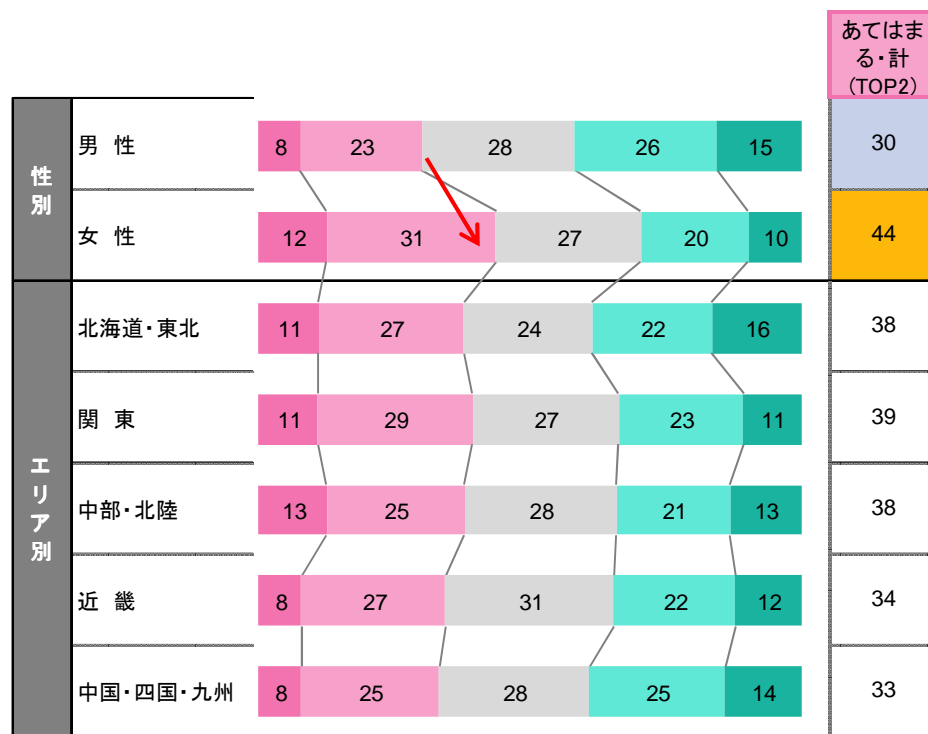
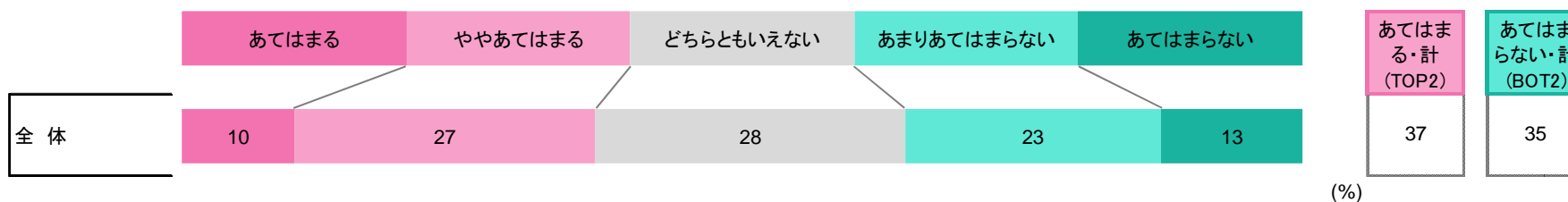
ダイエットをよくしている



(注) は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

- ◆日本人全体で見れば、『間食をよくする』は、「あてはまる・計」（肯定）が37%と、否定とほぼ拮抗している。
- ◆属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、高齢層よりも若年層になるほど、「間食する」人が多くなる。
- ◆肯定率は、男性は30%に対し、女性では44%と多い。また、70代では25%と少ないが、20代以下では5割まで増加する。

間食をよくする

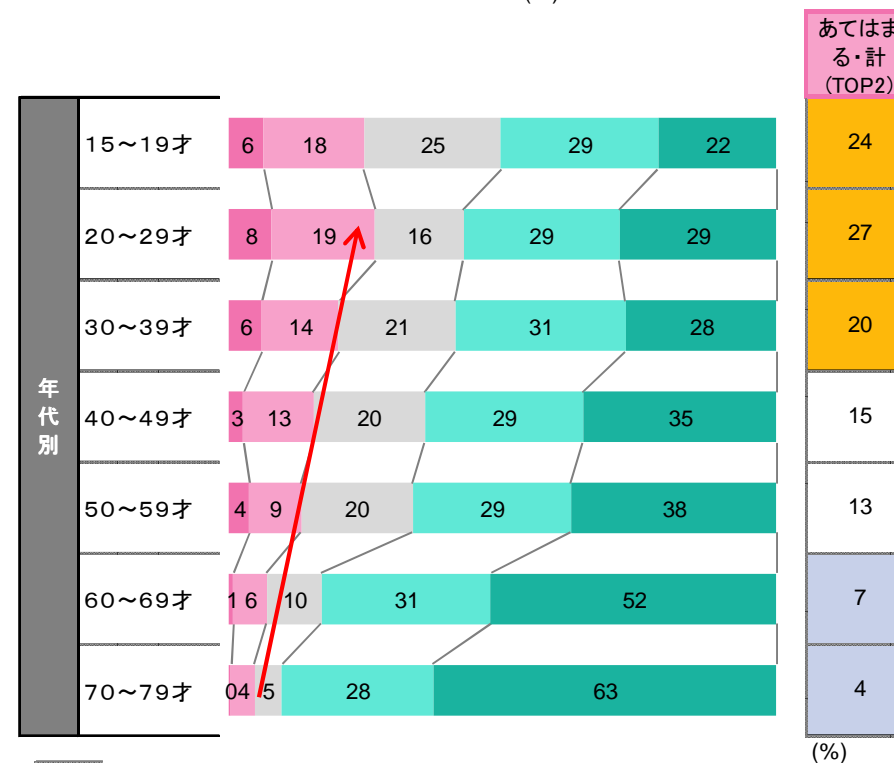
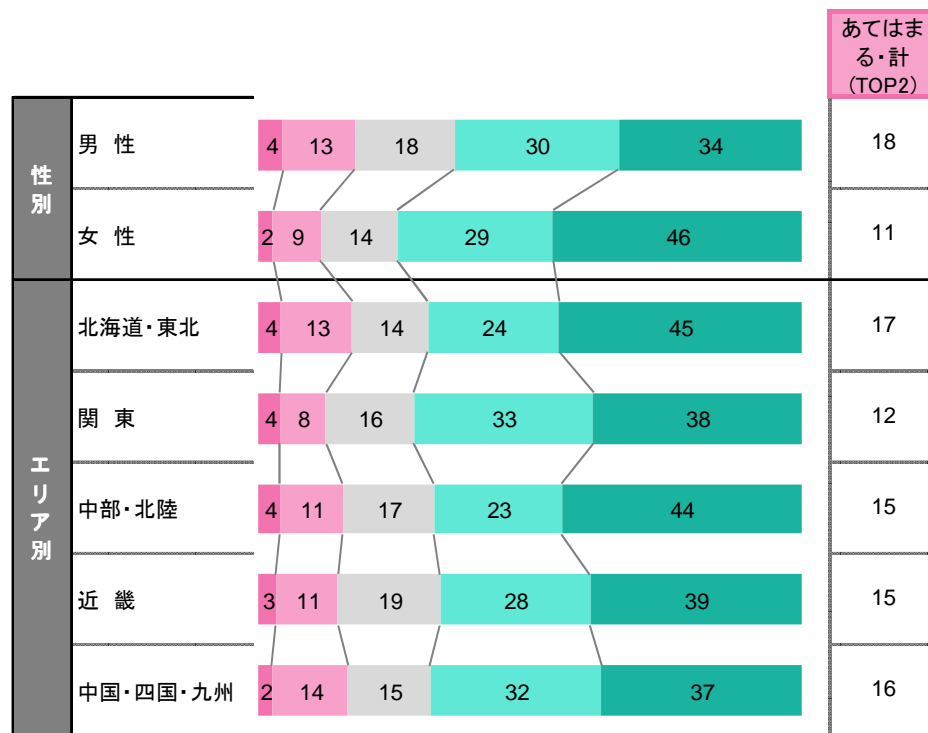
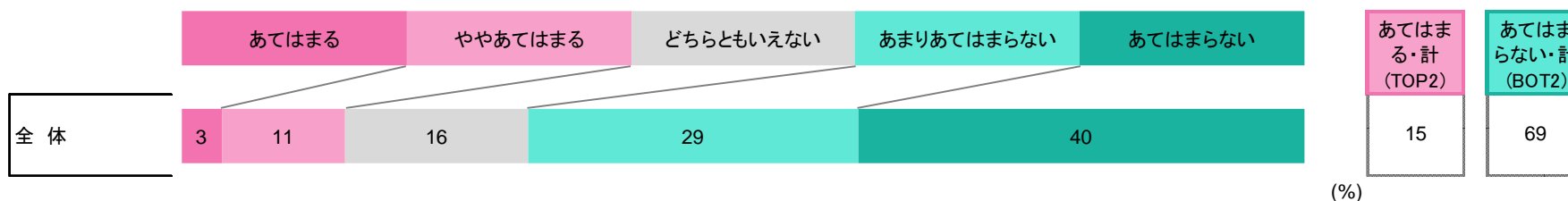


(注)   は全体より5ポイント以上高い、   は5ポイント以上低い



- ◆日本人全体で見れば、『夜食をとることが多い』は、「あてはまる・計」（肯定）が15%と少ない。
- ◆属性別では、男女では顕著な差がないが、年代差がみられ、高齢層よりも若年層になるほど、「夜食をとる」人が多くなる。
- ◆肯定率は、60代以下では1割に満たないが、30代以下では2割以上となる。

夜食をとることが多い

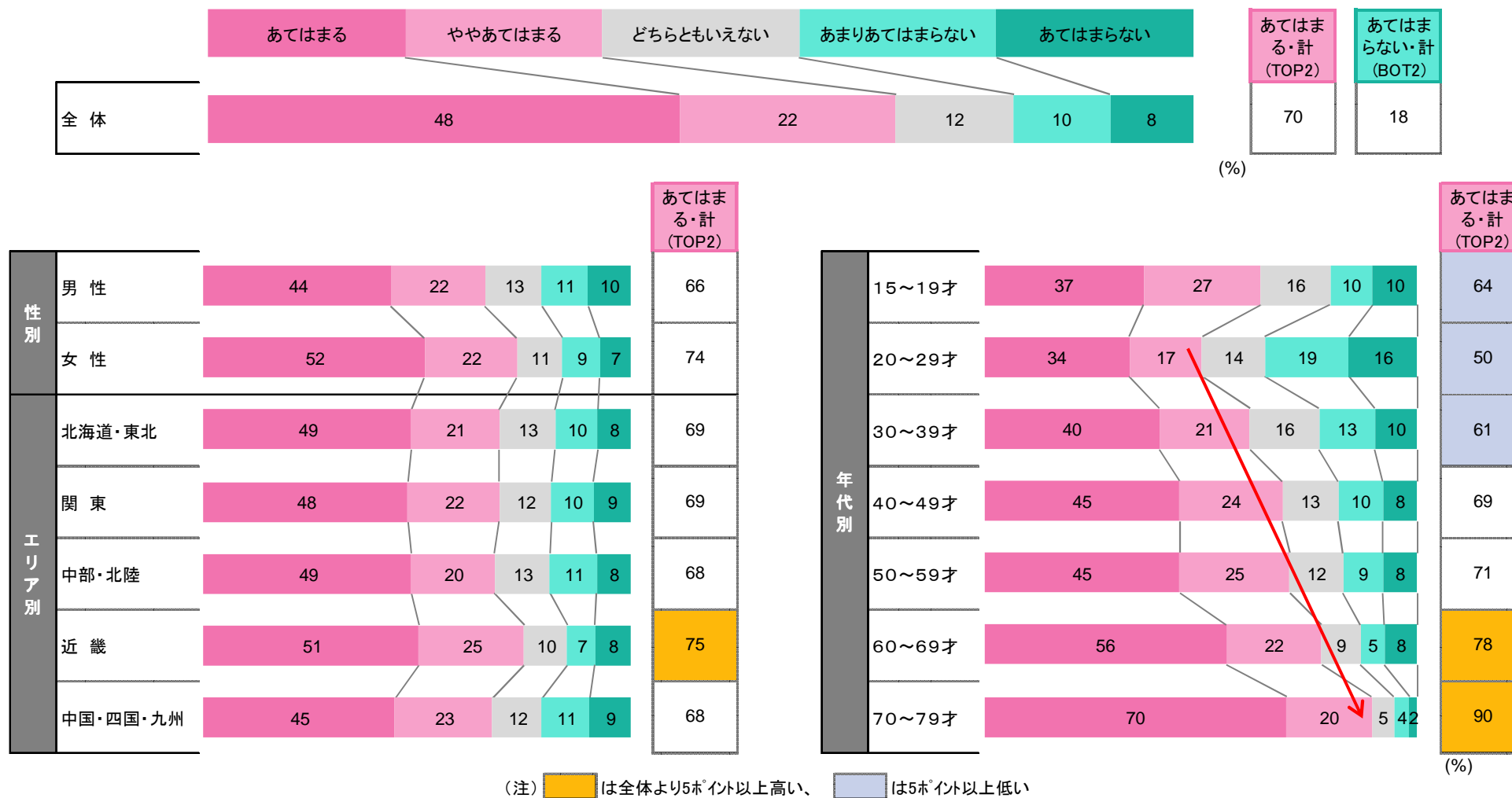


(注)  は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

(%)

- ◆日本人全体で見れば、『朝昼夜の3食を欠かさず食べている』は、「あてはまる・計」（肯定）が70%と多い。
- ◆属性別では、男女差は大きくないが、年代差は顕著で、若年層よりも高齢層になるほど、「3食欠かさず食べている」人が多くなる。
- ◆肯定率は、30代以下では5～6割強とだが、60代では8割弱、70代では9割まで増加する。

朝昼夜の3食を欠かさず食べている



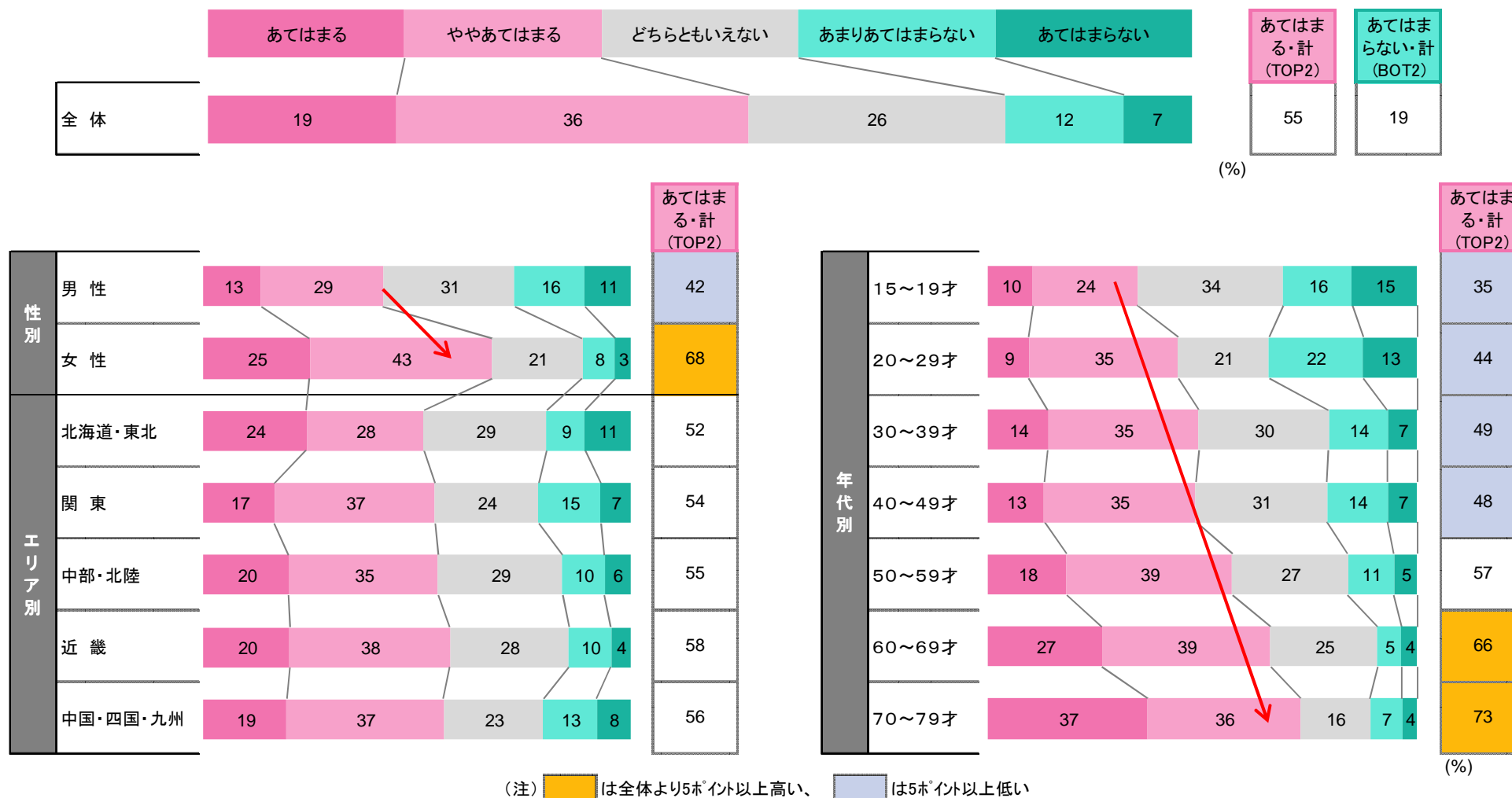
- ◆ 日本人全体で見れば、『食事をする時間帯はほぼ決まっている』は、「あてはまる・計」（肯定）が70%と多い。
- ◆ 属性別では、男女差と年代差がみられ、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層ほど、「食事の時間帯は決まっている」人が多くなる。
- ◆ 肯定率は、男性は65%に対し、女性では75%と多い。また、30代以下では5～6割強だが、60代になると8割強、70代では9割超まで増加する。

食事をする時間帯は、ほぼ決まっている



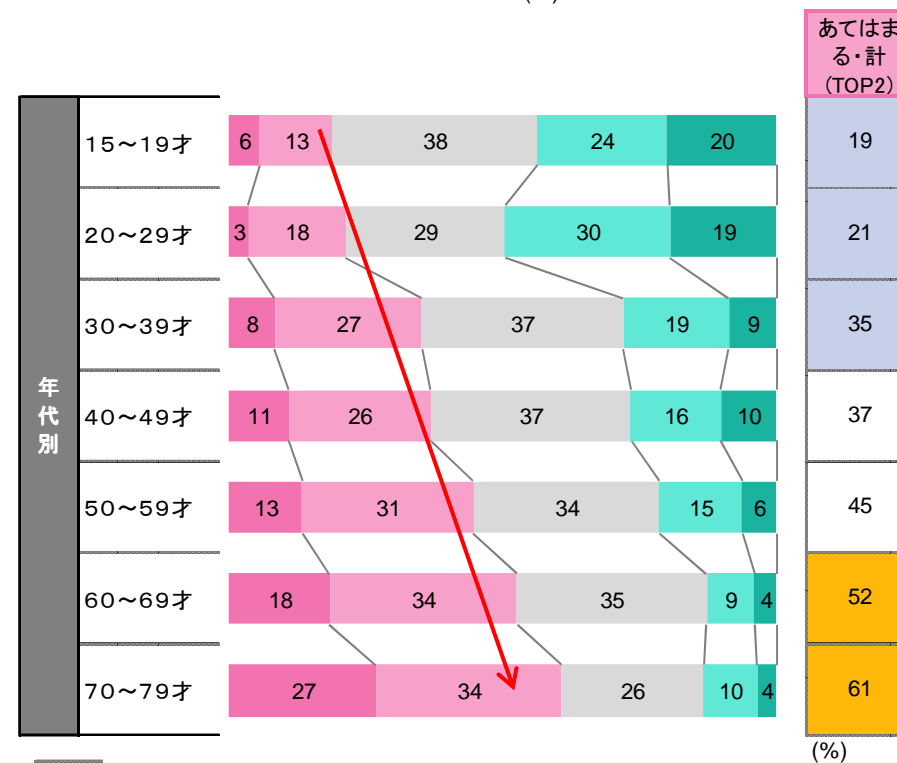
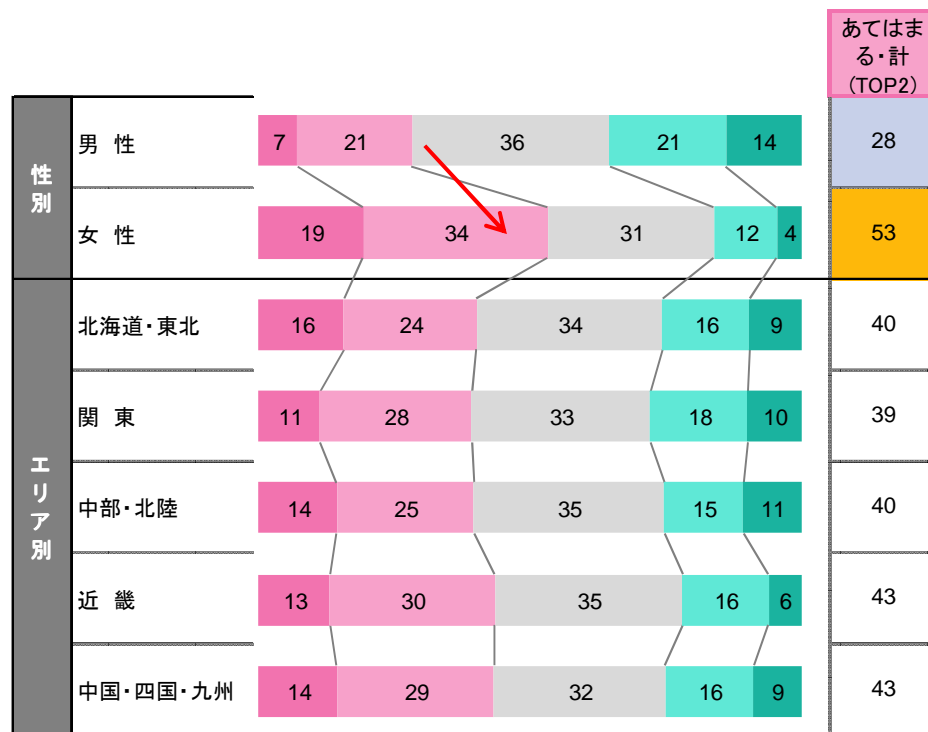
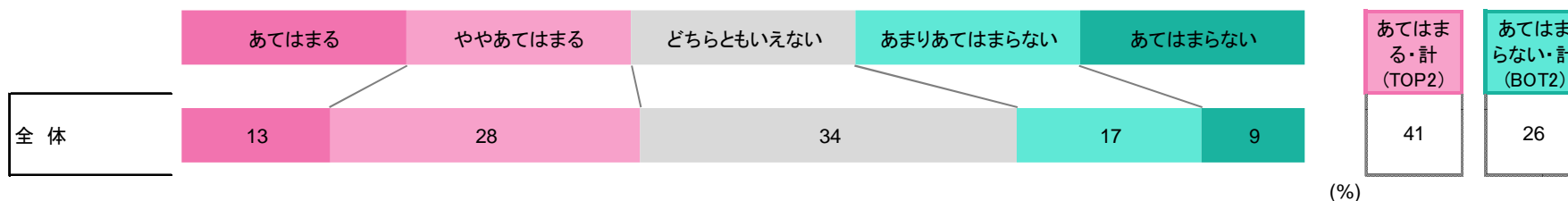
- ◆日本人全体で見れば、『食品の安全性を気にしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が55%と多い。
- ◆属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「安全性を気にしている」人が多くなる。
- ◆肯定率は、男性が42%に対し、女性は68%と多い。また、40代以下では5割に満たないが、60代では6割半ば、70代では7割強まで増加する。

食品の安全性を気にしている



- ◆ 日本人全体で見れば、『添加物や化学調味料を気にしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が41%。
- ◆ 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「添加物等を気にしている」人が多くなる。
- ◆ 肯定率は、男性が28%に対し、女性は53%と多い。また、20代までは2割前後と低いが、60代で5割強、70代で6割まで増加する。

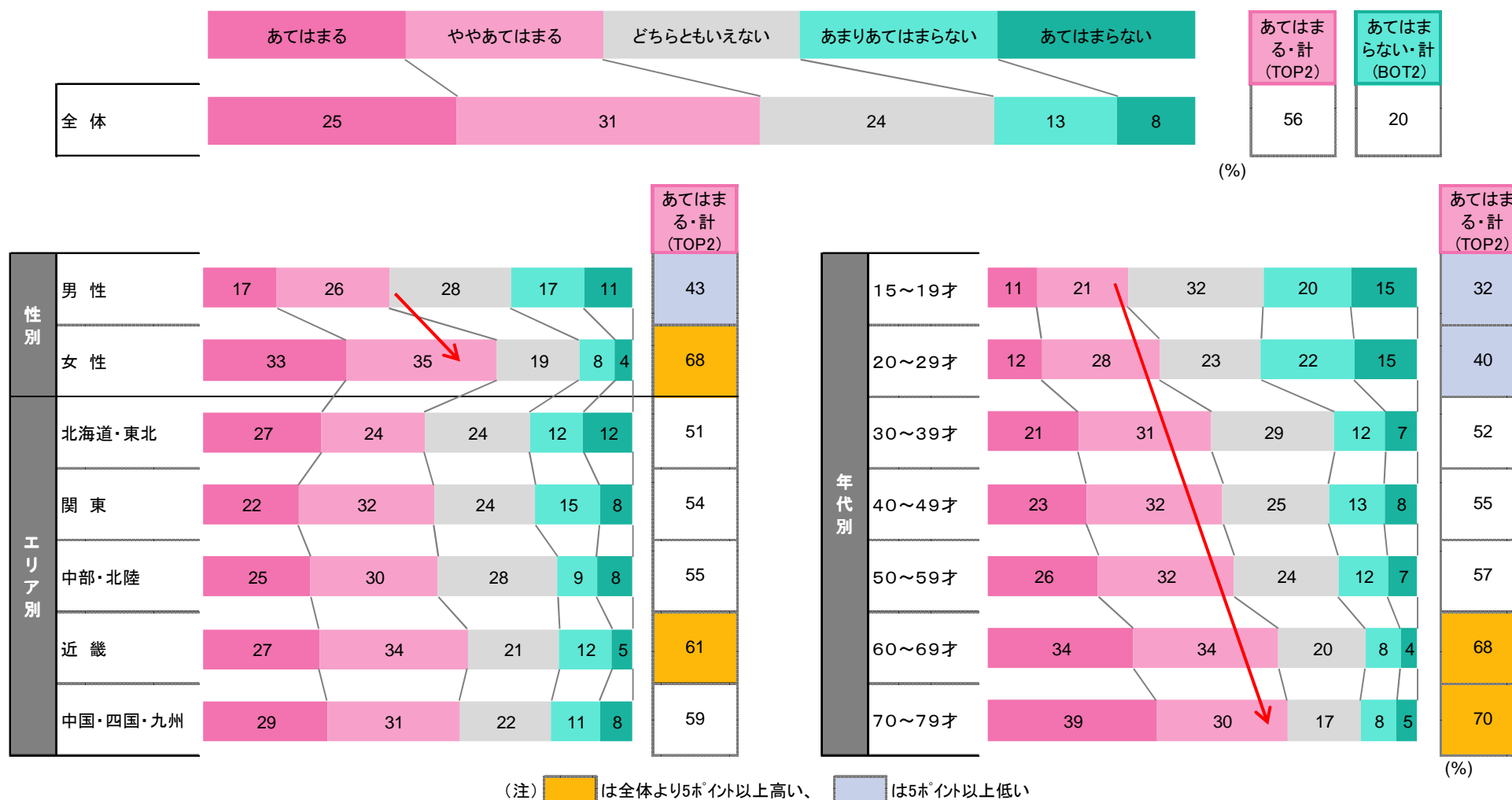
添加物や化学調味料を気にしている



(注)   は全体より5ポイント以上高い、   は5ポイント以上低い

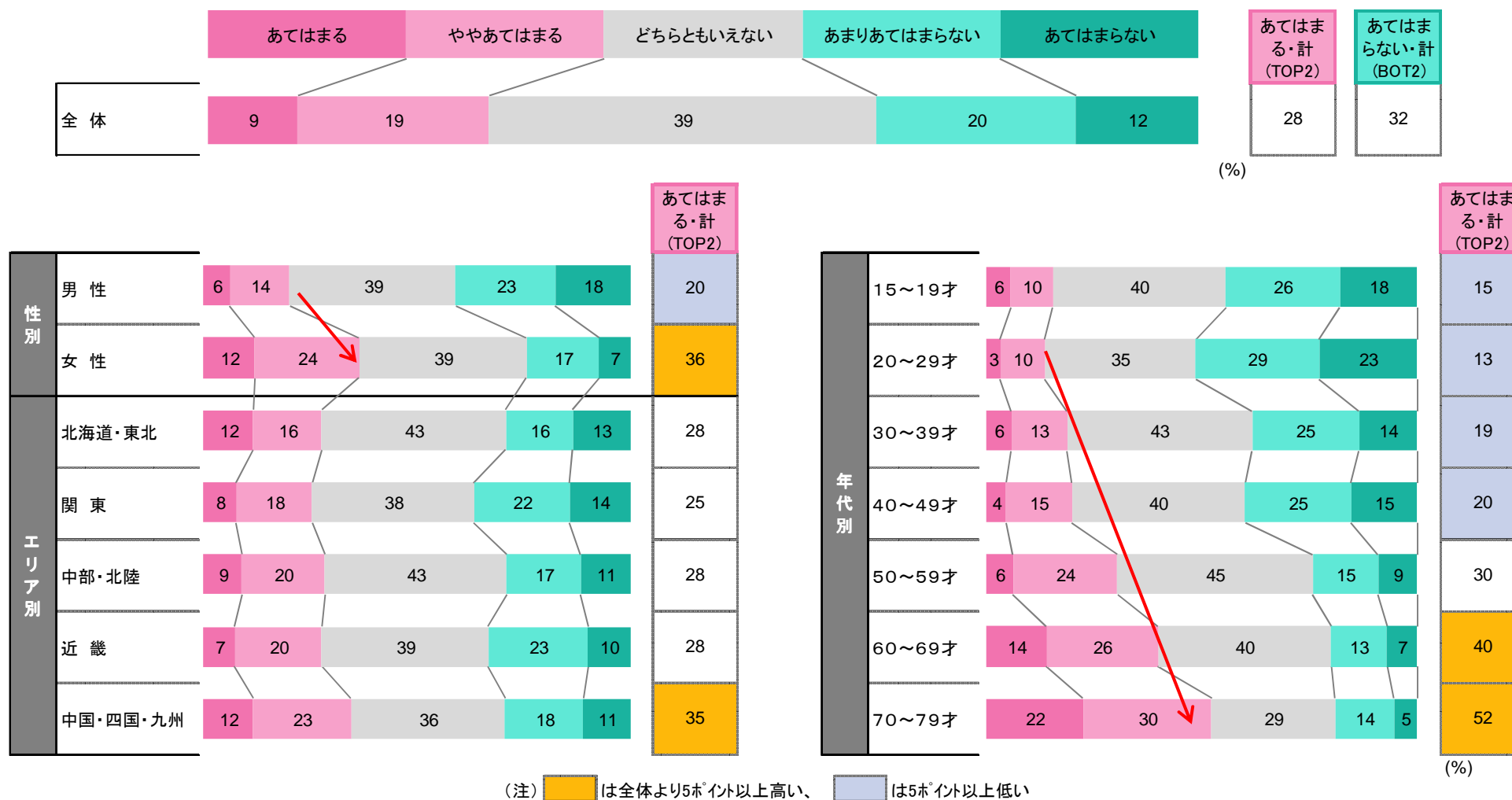
- ◆日本人全体で見れば、『野菜や肉、魚は、原産国を気にする』は、「あてはまる・計」（肯定）が56%と多い。
- ◆属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「原産国を気にする」人が多くなる。
- ◆肯定率は、男性が43%に対し、女性は68%と多い。また、20代以下では4割以下と低めだが、60代以上では約7割まで増加する。

野菜や肉、魚は、原産国を気にする



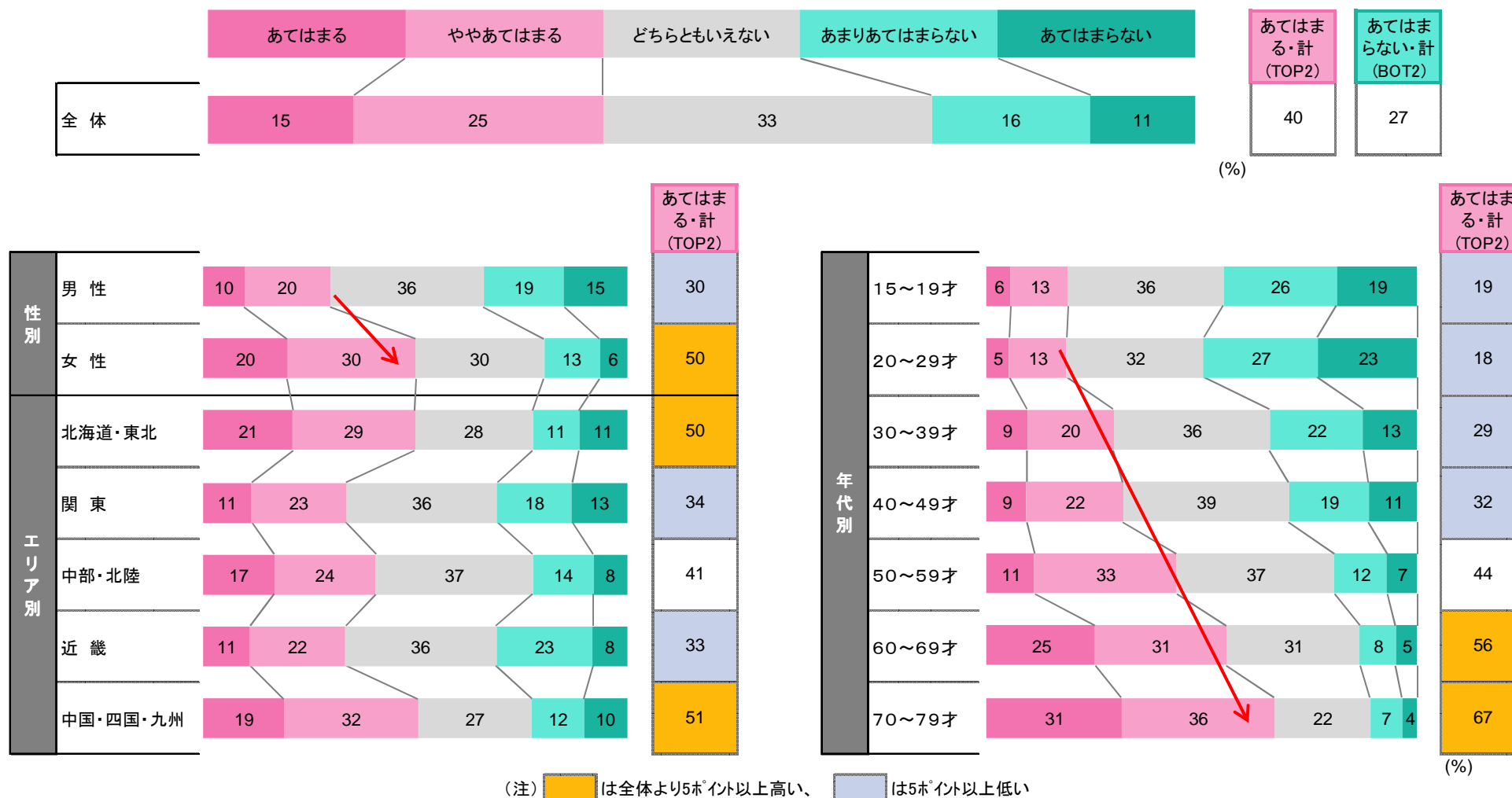
- ◆ 日本人全体で見れば、『無農薬や有機栽培のものを食べるようにしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が28%と少ない。
- ◆ 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「無農薬や有機栽培を食べる」人が多くなる。
- ◆ 肯定率は、男性が20%に対し、女性は36%と多い。また、40代以下では2割以下と低いが、60代では4割、70代になると5割強まで増加する。

無農薬や有機栽培のものを食べるようにしている



- ◆ 日本人全体で見れば、『地元でとれた野菜や食材を食べるようにしている』は、「あてはまる・計」（肯定）が40%。
- ◆ 属性別では、男女差と年代差があり、男性よりも女性で、若年層よりも高齢層になるほど、「地元の食材を食べる」人が多くなる。
- ◆ 肯定率は、男性が30%に対し、女性は50%と多い。また、40代以下では2～3割程度だが、60代では5割半ば、70代では7割近くまで増加する。
- ◆ またエリア別でも、関東と近畿では低く、北海道・東北、中国・四国・九州で高いという傾向がみられた。

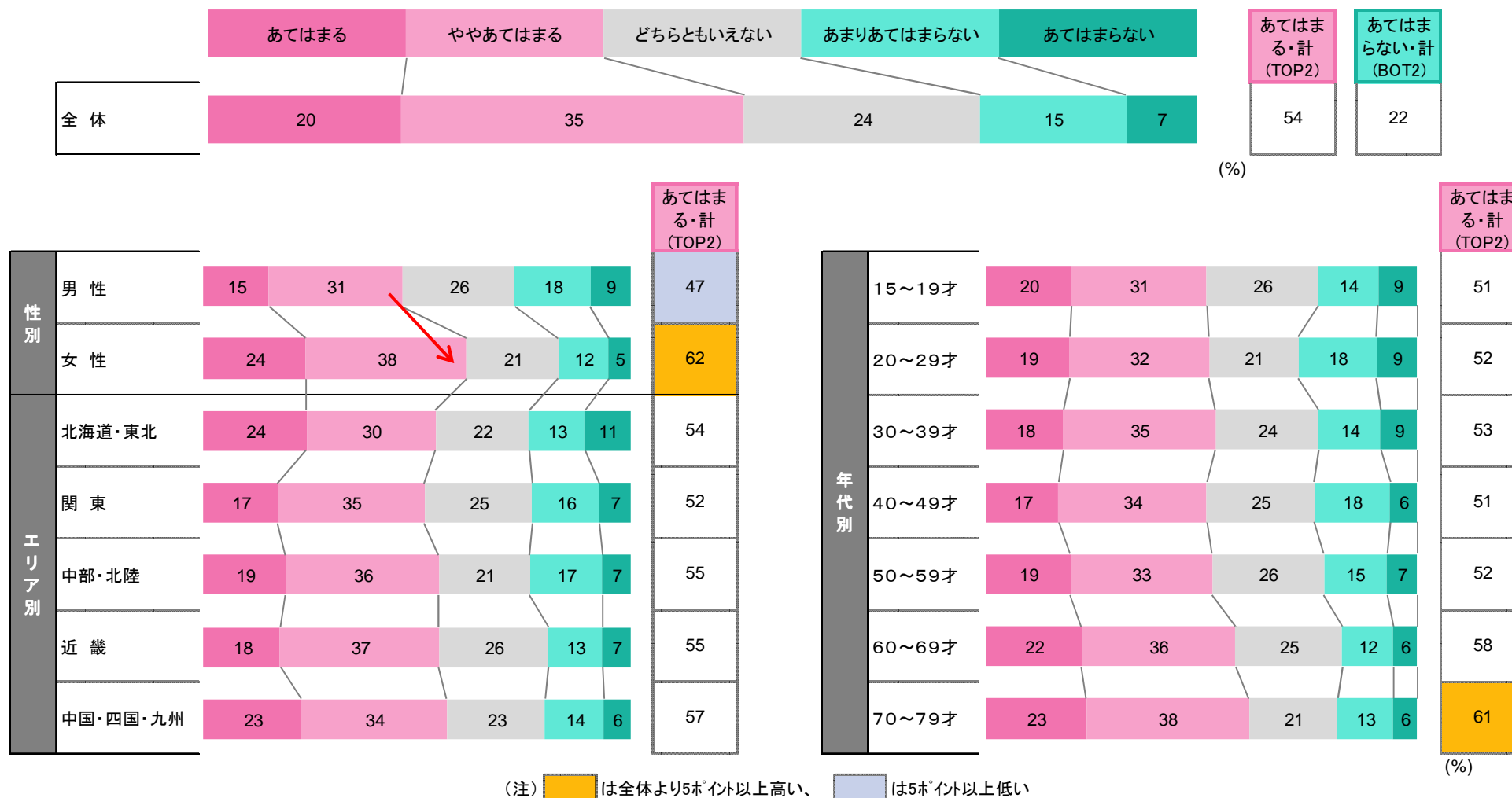
地元でとれた野菜や食材を食べるようにしている





- ◆日本人全体で見れば、『食品の賞味期限や消費期限を気にする方だ』は、「あてはまる・計」（肯定）が54%と多い。
- ◆属性別では、男性よりも女性で、「期限を気にする」人が多くなる。年代では、大差ではないものの高齢層で高くなる傾向がみられる。
- ◆肯定率は、男性が47%に対し、女性は62%と多い。また、50代以下ではいずれも5割強で同じだが、60代で6割弱、70代で6割強と最も高くなる。

食品の賞味期限や消費期限を気にする方だ



## 調査方法

- NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）
- 調査員による個別訪問留置調査

## 調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人 2,400人  
※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付をおこなった

## 抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し個人を割当て

## 調査期間

- 2015年4月（4/1～4/13）と 5月（5/1～5/18）

## 分析サンプル数

- 4月と5月の結果を合体して集計した。
- 分析に利用した属性別サンプル数は以下の通り。

### 【性別】

男 性	1,192
女 性	1,208

### 【年代別】

15～19才	144
20～29才	298
30～39才	388
40～49才	428
50～59才	364
60～69才	442
70～79才	336

### 【エリア別】

北海道・東北	276
関 東	876
中部・北陸	384
近 畿	384
中国・四国・九州	480

(人)

## NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

**①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。**

NOSは、毎月1回定期的に実施する乗り合い形式（オムニバス）の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

## 《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

**連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp**

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、  
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**